

ワインが水になった話

2022.10.17 校長 西谷 秀幸

今日は「ワインが水になった話」をします。

皆さんは、ワインというお酒を知っていますね。ワインはブドウから作るお酒です。世界中の多くの国で作られていますが、ブドウがたくさんとれるフランスという国で特にたくさん作られています。



そのフランスのある村の話です。お世話になった小学校の先生が、学校の仕事を辞めて自分の田舎に帰ることになったので、村の人たちは、お礼にワインを一人一瓶ずつ持ってきて、村の公園に置いた大きな樽にそのワインを樽いっぱいに入れて渡すことにしました。

その先生は、いっぱいに入ったワインの樽をもらい、とても喜びました。そして、田舎に帰った日、楽しみにしていた樽の中のワインを飲んでみました。そうすると、どうでしょう。なんと入っていたのはワインではなく、水だったのでした。



では、どうしてワインが水になってしまったのでしょうか。

「誰かが夜中にこっそりとが、別の樽と取り替えて盗んでしまったんじゃないか…。」「ワインが薄くなって自然に水になってしまったのでは…。」とかそう思った人もいられるかもしれません。

実は、こんなことがあったのです。

村の人たちは、みんながワインを持ち寄って樽に入れる約束をしていましたね。でも、「どうせ、自分一人くらいワインじゃなくて、水を入れても、樽いっぱいのワインの味は変わらないだろうから、自分だけ内緒でワインの代わりに安い水を入れちゃおう…。」と考えたのです。

つまり、ワインが水になったのは、誰かが樽を取り替えたわけでもなく、ワインが自然に水になったわけでもなく、「自分一人だけが約束を守らなくても大丈夫でしょ！」…なんて、みんなが考えて、誰一人もワインを樽の中に入れてなかったことが原因だったのでした。

さて、先週から廊下歩行週間が始まりました。5～6年生の生活委員の人たちが、「廊下は走らないで歩こう…」と声かけてくれましたね。

でも、残念ながら、まだ、走っている人がいるのです。「自分一人くらい走っても…」そう思っているのでしょうか。

自分だけじゃなく、1年生から6年生まで、みんなが楽しく、そして安全に学校生活を過ごすためには、全員が守らないと大変なことになってしまいます。「廊下を歩く」ことだけじゃありませんよ。挨拶だってそうだし、いじめだったそうだし、「自分一人くらいやらなくても大丈夫…」と思うのではなく、全員がしっかりとルールやマナーを守って、楽しく、安全に生活していきましょう。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先日は、学校公開、お疲れさまでした。掲示物についても、前回の反省を生かして、対応してくださり、ありがとうございました。また、川田先生による5年1組「学級会」の授業公開もありがとうございました。「学級会」の授業は、1日にして成り立つものではありません。うまくいく日もあり、うまくいかない日もある…。そんな小さな積み重ねの結果が金曜日の授業だったと思います。1つでも多くのことを学級での指導、日常の授業に生かしていきましょう。

また、木曜日の板橋区プログラミング教育推進委員会の授業公開（坂井先生）、金曜日のOJT研修会もよろしくお願いいたします。力のあるプロの教師は、先輩方の授業から、指導技術を盗み取ります。ぜひ、主任教諭の先生方の授業から、たくさんのことを盗み取り自分の指導に取り入れ、さらにバージョンアップさせましょう。先日も話しましたが、プログラミング教育の推進についても、過去の研究成果を遺物にしないよう、学年ごとに指導計画に沿って進めるようにしてください。

さて、今回話した「ワインが水になった話」は、小学校よりも中学や高校で話されることが多いようですが、知っている方もいるのではないかと思います。2年前にもオンライン朝会で話しましたが、「自分だけだったら大丈夫。自分一人が手抜きをしても…。」ということへの戒めとして有名な話です。

成丘小では、先週から「廊下歩行週間」が始まり、生活委員会の子供たちが巡回をして声かけしてくれています。

学校には、いくつかのルールや約束事がありますが、少ないに越したことはありません。自分意識だけでなく、相手意識をもって、どうすればみんなが楽しく安全に過ごすことができるのか、「言われたからやる」「怒られたからやる」ではなく、一人一人が相手意識をもって、考えて行動する子に育てなければなりません。

多くの子供たちは意識して行動してくれていますが、それでもなお、廊下や階段を平気で走ってしまう子が、少なからずいることが残念です。「自分一人くらいしなくても」と思っているのでしょうか。（それとも、「安全に生活する」ために、どんなことが必要なのか、そもそも考えられないのか、考えたとしても行動化に結び付けられないのか…。）これは、上の学年だからできる、下の学年だからできない…という問題ではありません。

「自分一人くらいやらなくてもいいや」と考えずに、「自分だけはきちんと実行する」「自分は約束を守る」、そういう子が多くなってもらいたいと願っています。学年や学級の実態に合わせて、補足などをお願いします。

【資料】手抜き・約束関連の名言

- 視聴者が最後に見た江頭が手抜きの江頭だったら申し訳ないだろう？（江頭2:50）
- やれることは全てやったし、手を抜いたことはありません。常にやれることをやろうとした自分がいたこと、それに対して準備した自分がいたことを誇りに思っています。（イチロー）
- 特別なことをするために特別なことをするのではない、特別なことをするために普段どおりの当たり前のことをする。（イチロー）
- 人間たる者、自分への約束を破る者が最もくだらぬ。（吉田松陰）
- 勇気ある人は皆約束を守る人間である。（ピエール・コルネイユ）
- 成功者とは自分との約束を破らなかった人（西田文郎）
- 約束を守ることを、常に頭に置いておきなさい。（ジョージ・ワシントン）
- どんなに小さなことでも、自他に対する約束を守ることによって内的な誠実さが育成され、自制心と自分の人生に対する責任を引き受ける勇気と力が湧いてくる。（スティーブン・R・コヴィー）